

編集後記

20世紀も余すところ10年、21世紀に向け我が国の医療で特記しなければならない現象は急速な高齢化社会の到来であり、その対応手段を早急に確立するよう迫られていることでしょう。過去半世紀にわたって進歩発展してきた臓器別分野での医学・診療システムもあまりの顕微鏡的な専門分割の弊害が反省され、包括医療の考えが導入がされるところとなっています。リハビリテーション医学・医療はその起源から“障害”の予防と改善、能力低下と社会的不利の是正ということを目指して、すでに包括医療を実践してきております。このような時期にあたって、本誌では“包括医療システムの中のリハビリテーション”という特集で、包括医療とリハビリテーション医療との関係を掘り下げてみました。

池上直己氏は包括医療の定義と合わせてリハビリテーション医学とのかかわりを英国の事例などをまじえて解説され、続いて伊藤利之氏は横浜市のリハビリテーションセンターと地域リハビリテーションのネットワークの在り方を紹介されています。また、具体的な事例報告として“老人”について浜村明德氏ら、“障害児”は里宇明元氏、“精神障害者”は野田文隆氏ら、“老人保健施設”について隅田俊子氏が長年の経験を報告して下さいました。それぞれパイオニ

ア的なご苦労がにじみ出ている論文です。

鼎談“福祉関係八法の改定をめぐって”は今田 拓氏の司会で厚生省の江口隆裕氏と唐澤 剛氏をお招きしてのものです。今回の改正は福祉政策に関する八法を一括して行ったもので、高齢化社会に向けての国政の意気込みが感じられます。ことに地域医療、医療と福祉の連携の必要性（現時点ではこれがうまくいっていないことを自他ともに認め合っています）、さらには介護福祉士の問題まで論じ合われて、“特集”のテーマに関連した鼎談となり、まさにタイムリーでした。

研究と報告は北村純一氏らの“脳卒中患者に対する抗パーキンソン剤の試み”、紹介は笠木重人氏の“人工呼吸器下での発声法”など内容の濃いものです。

また、講座「日常生活動作の再検討」、実践講座「リハビリテーション医に必要な運動器のMRIの知識」、一頁講座「リハビリテーション関連用語集」が、それぞれ上田敏氏、大澤 忠氏、今田 拓氏を第1回目の執筆者としてスタートしました。1991年の第1号として本誌を自信をもってお届けすることができ、編集者一同この上なく喜んでいるところです。本年も皆様にとって良い年でありますように。

(千野直一)

総合リハビリテーション (第19巻 第1号)

1991年1月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,906円 (本体1,850円)
(配送料61円)

〔年ぎめ予約購読料 24,420円
(本体23,709円、ただし増大号を含む)〕
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5704

(担当：佐々木・細田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株)：電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (株)東広社：電話 (03) 3409-8803

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

今 田 拓
江 口 壽 榮 夫
大 橋 正 洋
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
落 合 美 美 子
加 倉 井 周 一
古 賀 唯 夫
小 賀 蓉 子
近 藤 徹
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
田 中 信 行
土 肥 信 之
土 肥 豊
中 村 隆 一
奈 良 勲
野 島 元 雄
野 村 歎
初 山 泰 弘
福 井 圀 彦
福 田 道 隆
村 上 恵 一
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1991, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• 無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。